閉経モデルマウス腸管粘膜における細胞増殖・細胞老化関連蛋白の発現に関する検討

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2020-10-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 新谷, 路子, 今西, 麻樹子, 吉川, 豊
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1125

2-T-3

閉経モデルマウス腸管粘膜における
細胞増殖・細胞老化関連蛋白の発現に関する検討

新谷路子[1)]
今西麻樹子[1)]　吉川 豊[2)]

エストロゲンは女性にとって主要な性ホルモンであるが、閉経により急激な低下が引き起こされる。エストロゲンは生殖機能を担うだけではなく、諸臓器の細胞増殖または抑制に関与すると報告され、閉経後の大腸癌との因果関係についても研究が行われているが、いまだ一致した見解は得られていない。我々は、卵巣摘出（閉経後骨粗鬆症モデル）マウスを対象とし、低エストロゲン下の大腸粘膜上皮細胞における細胞死誘導について分析を行っている。これまでの研究から、閉経モデルマウスはコントロールマウスと比較し、アポトーシス実行因子であるカスパーゼ 3 の発現が有意に高く、アポトーシスが促進している可能性を示している。本研究では、細胞の増殖能、抗アポトーシス因子の関連性、誘導されているアポトーシス経路（外因性または内因性）について検討を加えた。その結果、閉経モデルマウスとコントロールマウスにおいて、抗アポトーシス因子および細胞増殖マーカーの発現に有意差はなく、また、カスパーゼ 8（外因性経路）およびカスパーゼ 9（内因性経路）ともに閉経モデルマウスとコントロール間で発現に有意差は見られなかった。本発表では、他の誘導型カスパーゼの発現、細胞老化関連蛋白や非アポトーシス細胞死マーカーの関連性について検討を加え報告する。

1）保健科学部医療検査学科　2）神戸女子大学大学院健康栄養学研究科